

大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム (SCORE)
事後評価結果通知

課題番号	STSC30001
研究開発課題名:	視覚障がい者単独歩行支援装置の施設内活用 MVP の開発
研究代表者(所属・役職・氏名)	大阪市立大学 大学院工学研究科 講師 今津 篤志

1. ビジネスモデル仮説検証の目的

視覚障がい者の単独歩行を支援する装置である、センサとコンピュータを搭載した車輪付き杖型ナビシステムの実用化と社会実装を目指し、まず歩行案内とデモンストレーションが可能なレベルの MVP を作成する。その MVP を使用者である視覚障がい者の方に試用していただき評価を受ける。また、公道での実用化以前の中間的なビジネスモデルとして、私有地や施設内限定での案内を行う装置を施設にレンタル・リースし、設定・メンテナンスを行うというビジネスモデルを考え、顧客候補を探索し評価を受ける。さらに、導入を促進するため公的助成や企業資金を活用する方法についても調査・検討する。

2. ビジネスモデル仮説検証の概要

屋内の既知の環境で道案内が可能な MVP を開発し、視覚障がい当事者 18 名に体験していただき、ショッピングモールでの歩行実証実験とヒアリングを行った。実環境で視覚障がい者の方を案内する実験で衝突などなく完走できたことは大きな成果であった。実用化に向けて確実性の向上や利用できる条件の拡大が今後の課題である。視覚障がい者を支援しているガイドヘルパー、歩行訓練士、事業者にもヒアリングを行った。また施設内限定での運用のビジネスモデルの顧客となり得る施設として、科学館、テーマパーク、不動産デベロッパー、鉄道会社にインタビューを行った。得られた要望に応える改善を行い、実証実験などから今後も協力をお願いしていく予定である。

3. 総合所見

事業化に向けた活動を粘り強く継続しており、着実な進捗が認められる。特に、駅構内での歩行技術検証を実施した点を評価する。社会的に意義のある事業なので、チームアップと連携パートナーの探索を継続し、事業化を実現することを期待する。

以上